

と海藻であり、この点に関しては既存の資料（沖水試1976・沖水試八重山支場1980（未発表）等）から放流場所に選定した3ヶ所は問題がない。

参考文献 伊野波盛仁・当間武・上原孝喜（1978a）：昭和51年度宮古西部地区漁業資源調査報告書 昭和51年度沖縄県水産試験場事業報告書、41-52。

伊野波盛仁・当間武・上原孝喜（1978b）：昭和52年度宮古西部地区漁業資源調査報告書 昭和52年度沖縄県水産試験場事業報告書、41-54。

沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部（1979）：沖縄漁業振興実験計画調査にかかる漁場診断調査結果報告書。

沖縄水産試験場（1976）：与那覇湾漁業資源生態調査報告書 沖水試資料No.17。

沖縄県水産試験場（1982a）：大規模増殖場開発事業調査報告書 昭和53-57年度 恩納地区 沖水試資料No.58。

沖縄県水産試験場（1982b）：昭和56年度指定調査研究総合助成事業報告書 シラヒケウニ種苗生産研究 沖水試資料No.66。

沖縄県水産試験場八重山支場（1980）：伊良部地区漁場造成事業調査報告書（未発表）。

沖縄県水産試験場八重山支場（1982）：昭和56年度川平保護水面調査報告書 沖水試資料No.61。

当真武（1981）：琉球列島（沖縄島以南）の海草藻場面積と主要組成 昭和54年度沖縄県水産試験場事業報告書、1981-1982。

日本気象協会沖縄支部（1982）：昭和57年沖縄の気象暦。

日本水産学会編（1976）：種苗の放流効果 恒星社厚生閣。

農林水産技術会議事務局（1979）：浅海域における増養殖場の開発に関する総合研究。

藤永元作・倉田博（1977）：クルマエビの生物学的研究・今井丈夫監修「浅海完全養殖」297。

宮城県他（1982）：昭和56年度放流技術開発事業報告書 クルマエビ編。

Strickland J. D. H. and Parsons T. R. (1982) : A Practical Handbook of Seawater Analysis.

海水の密度は通常0.01-0.1で、密度より海水の組成を示す指標として標準的である。

海水の主な成分は水素と酸素の混合ガスである。海水は陸地へ流入する河川水や、地下河水などの淡水と海水との混合によって形成される。

海水の主要な成分は水素と酸素の混合ガスである。海水は陸地へ流入する河川水や、地下河水などの淡水と海水との混合によって形成される。

海水の主要な成分は水素と酸素の混合ガスである。海水は陸地へ流入する河川水や、地下河水などの淡水と海水との混合によって形成される。